

英語力と人間力を備え、次のステージへ。
指導の工夫が光る実学の授業

関西外国語大学短期大学部

(大阪府枚方市)

関西外国語大学短期大学部では、確かな英語力と豊かな人間力の養成に力を入れている。多くの卒業生が、英語力と人間力を生かし、航空業界やホテル、旅行業界、金融、メーカーなどで活躍中だ。就職に限らず、関西外国語大学への編入を目指す学生も多い。学生が希望する進路を実現できるよう、幅広い科目群を設置。専門選択科目「サービス・ホスピタリティ」内の科目「秘書学概論」「秘書実務」では秘書検定の内容を導入し、受験を推進している。取り組みを伺った。

充実した科目群が短期大学部の強み

関西外国語大学短期大学部は昭和28年に開設され、併設する関西外国語大学よりも歴史が古い。大阪府枚方市にある広大なキャンパスでは、短大生と四大大生が共に学んでおり、世界各国から集まる留学生が国際色豊かな雰囲気を作り出している。

短大のビジョンは、「コミュニケーションツールとしての実用英語力の養成と、豊かな人間力を兼ね備えた人材の育成」だ。学生は、関西外国語大学をはじめ、他の四年制大学への編入学や就職といったキャリアイメージを抱き、2年間で、将来の基礎を築く。

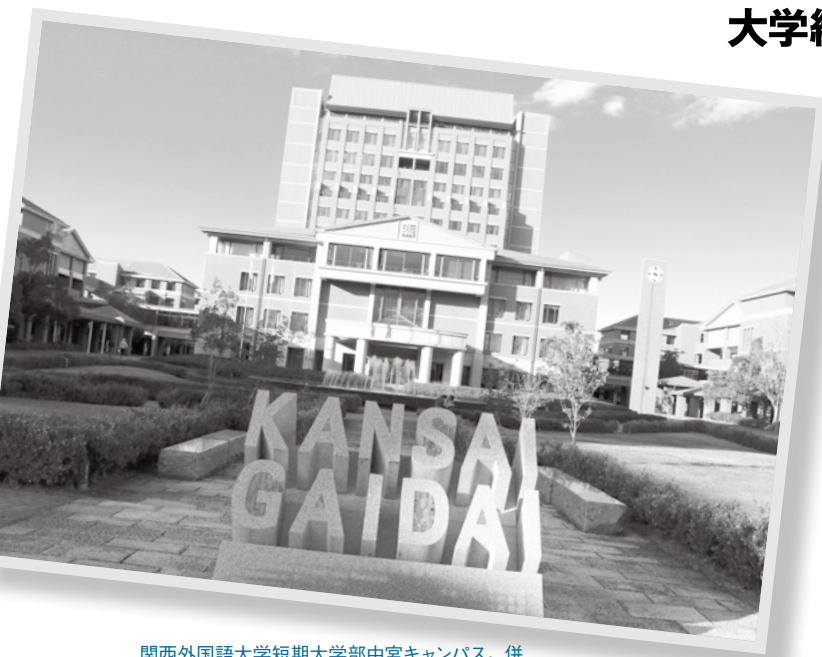
短期大学部は英米語学科のみで、2000人近い学生が在籍している。英語の基礎学力を強化するために、1年次から英語の授業を週7回実施。目標は、卒業までにTOEIC200点以上、もしくはTOEFL100点以上のアツプを目指すこと。そのため、必修科目のクラスは25人程度に設定し、基礎語学力を確実に習得できる環境を整えている。全教員の約40%がネイティブ教員であることや、短期大学部独自の留学プログラムが充実していることなど、外国語大学ならではの強みがある。

人間力の養成も強みの一つだ。短大独自の授業「K.G.C.ベーシックス」は、学生が2年間受講する必修科目。短大での勉強法やキャリア・プランニング、一般常識、マナーなどを学び、社会人に必要な力を育成する。

専門選択科目も充実しており、学生は進路に合わせて科目を選択することができる。専門教育科目は、「編入学準備科目群」「国際コミュニケーション科目群」「サービス・ホスピタリティ科目群」の三つ。今回は、「サービス・ホスピタリティ科目群」の授業「秘書学概論」「秘書実務」の取り組みをご紹介します。

両科目を担当するのは、高橋克実教授だ。高橋教授はビジネス界の出身で、大手家電メーカーの社長秘書、社長通訳として活躍した経歴を持つ。

「秘書学概論と秘書実務は、オフィスで必要とされる常識や心構え、社会人基礎力など、実学



関西外国語大学短期大学部中宮キャンパス。併設する関西外国語大学では、世界37カ国・地域から外国人留学生を受け入れている。CAIに採用された学生数は日本一を誇る



授業の終わりと始まりは必ずペアでお辞儀をする。「コミュニケーション力を上げるためにも、参加意識を持って取り組んでもらいたいのでペアワークとグループワークを中心にを行っています」(高橋教授)



高橋克実教授。大手家電メーカーで、社長秘書、社長通訳、海外渉外総括を歴任。退職後、教授として英語科目や秘書科目を担当している。「自分の体験を話すようにしています。将来役立ててもらえたらうれしい」と話す



学生の探究心を鼓舞する それが教師の役割

を学ぶ科目です。秘書士(全国大学実務教育協会)課程の専門科目でもあり、両科目を必修とする資格課程を修めると秘書士として認定されます。認定者数は、毎年百数十人を超え、その数は全国一位を誇ります」(高橋教授)。

「秘書実務」の授業を見学した。履修生の約8割が1年生で、2年生と混合したクラスだ。「授業は3クラスに分けて行っています。短大

生の半数近くが受講しているため、特に気合いを入れて指導に当たっています」(高橋教授)。

テキストは早稲田教育出版社の『新秘書特講』を使用し、秘書検定の受験も推進している。その理由について高橋教授は次のように話す。

「多くの卒業生が、航空、旅行、ホテル業界など接客を伴い、コミュニケーションスキルが求められる仕事に従事しています。秘書検定では、秘書の心構えやあいさつ、言葉の使い方、電話応対、接客サービスなど幅広い内容を学ぶことができます。学び習得したことは自信につながります。そうした意味でも、有効な学習ができる実利的な検定であると考えています」。

授業は、「よろしくお願いします」というあいさつとお辞儀で始まり、終了時もお辞儀で締めくくられる。ペアワークかグループワークが中心で、はじめに「役割分担」を決める。キャストは、①ボイスアクター／アクトレス ②リポーター ③ライター ④アクター／アクトレスの4役。グループ内で学生が配役を決める間に、高橋教授は出欠確認をする。

「100名を超えた場合も、学生の名前を呼び、声を掛けることは怠りません」と話す。

この日のテーマは、ビジネス文書の作成。作成方法をはじめ、社内文書と社外文書の違いなどを学ぶ。

「では、教科書を読んでいただきます。○○○グループのボイスアクター／アクトレスの人、お願いします」と学生を当てる高橋教授。「参

加意識を持って臨んでほしい」と狙いを語る。

時折、「拜啓の結語として正しいものは何?」とクイズを出題。正解を○、不正解を×で表した棒や、ピンポンという音が鳴るサウンドマシーンなどさまざまな道具を使う。高橋教授の工夫が光る場面だ。

「楽しくなければ授業ではない。しかし、楽しいだけでも授業ではない」というのが、私の指導のモットーです。学生の探究心を鼓舞することが教師の役目だと思っています。学生に「なぜ」という問い掛けをすることを大切にしています。考える癖を付けてほしいのです。一方的にテキストに沿って説明しているだけでは意味がありません。確かな力を習得させるためには、指導に工夫が必要なのです」。

高橋教授は英語の必修科目も担当しているため、英単語やカタカナ英語が出てきたときは、細かく説明するそうだ。

「例えば、ペットボトル。これは和製英語で、Plastic bottleが正解です。外国語大学の学生であれば、こうした常識は持っている当然。社会で恥をかかないためにも意識してほしい」。

授業を履修する学生に話を聞いた。1回生の山田遥花さんと、中村菜美姫さんは「秘書実務」を履修した理由をこう話す。

「社会人に必要とされるビジネスマナーや常識を身に付けることが大切だと思いました。将来はアナウンサーもしくはCAになるのが夢。どちらも秘書検定で学んだ心構えや、さまざま



な場面での対応方法が役立ちそうです」と語る中村さん。夢をかなえるため、関西外国語大学への編入を目指し、奮闘中だ。

山田さんは、音楽業界への就職を希望している。

「上司のスケジュール管理や身の回りの世話を、どのように行うのかについても学ぶことができました。自己管理をする上でも生かれますし、アーティストのマネジメントにも通じるものがあるように思います。どのような業界でも役に立つ社会人として必要なスキルを学べてよかったです。学習したことが生かせる職場をイメージして、就職活動に臨みたいですね」。

これから秘書検定に挑戦する予定の2人。「秘書検定1級合格を目指して頑張りたい」と高い意欲を見せる。

活躍する卒業生が伝える ビジネス系検定のよさ

「秘書学概論」「秘書実務」には、卒業生が参加することも。この日は、同短大の卒業生で、大手家電メーカーで兼務秘書として活躍する兵藤友恵さんが自身の体験談を披露した。

「秘書関連のセミナーで高橋先生と出会ったのがきっかけです。『われわれの経験談は、必ず学生の将来に大きく役立つ』という先生の思いに賛同して、就業時間後、授業に参加させていただきました」と話す兵藤さん。親しみやすい笑顔が好印象を与える。

後輩に向けた兵藤さんの言葉が印象的だ。

「組織はチームで動いています。言うまでもなく、人と人とのつながりが大切です。成長する方法はさまざまですが、私は新しい仕事を任されるたびにビジネス系検定を活用して勉強してきました。秘書検定・サービスマネジメント検定・ビジネス文書検定1級に合格したことが、自信につながっています。『やってみよう!』というチャレンジ精神が大切です。ぜひ挑戦してほしい」とエールを送るとともに、学生を刺激するこんな話も。

「在学中にもっと積極的に、留学生と交流しておけばよかったと後悔しています。外国語大学の強み・特長を生かして成長し、羽ばたいてほしい。英語力と人間力を備えた人材を、社会は求めています」。

先輩の思いを聞いた山田さんと中村さんはどのような感想を持ったのだろうか。

「夢はありますが、仕事をするとというイメージがなかなか湧かないのが正直なところでした。しかし、兵藤さんの話を聞いて、今学べるべきこと、経験すべきことに気がきました。社会で活躍されている方の話を聞くと、将来へのモチベーションが上がります。同じ女性が活躍する姿は刺激的であり、憧れます」。

高橋教授も卒業生である兵藤さんの来訪を歓迎している。

「兵藤さんは向上心を持ち、いろいろなことに挑戦し、活躍しています。学生たちにとっても

貴重なロールモデルです。私もビジネス界出身ですが、実業界での体験談は、本学の建学の精神である、時代と社会の要請に添えていく実学の実現にもつながると考えています。今後も工夫を凝らしていく決意です」。



(左から)山田遥花さんと中村菜美姫さん。二人は「秘書学概論」「秘書実務」を履修。「秘書検定1級の合格を目指して勉強中です。ビジネスに必要なマナーと常識を身に付けて活躍したいです」と目を輝かせる

短期大学部OGの兵藤友恵さん。現在、大手家電メーカーで兼務秘書として活躍中。「この勉強をしておいてよかった、もっとこうすればよかったという思いを在校生に伝えています。私の話を聞いて学生がやる気を出してくれたらうれしいですね」と笑顔だ

